

平成30年度 教育方法改善のための自己点検・評価（授業評価等）実施状況調査票

1. 学生による授業評価

(1) 実施状況

別紙1「平成30年度授業評価実施状況一覧」のとおり

(2) 実施組織

学部等	大学側（学生側）
大学教育・学生支援機構	大学教育学生支援機構 大学教育センター学部教務委員会 教育推進部会
教育学部 教育学研究科	教育学部教務委員会
社会情報学部 社会情報学研究科	教務委員会，大学院学務委員会
医学部 医学科	医学科教務部会（医学科学友会）
医学部 保健学科	保健学科教育課程専門委員会
医学系研究科	医科学専攻教務委員会 生命医科学専攻教務委員会
保健学研究科	保健学研究科
理工学部 理工学府	理工学部，理工学府

(3) 実施方法

学部等	実施方法
大学教育・学生支援機構	実施科目及びアンケート項目について教育推進部会で審議し，大学教育センター学部教務委員会において決定。 教務システムを利用しアンケートを実施。
教育学部 教育学研究科	WEBを利用してアンケートを実施した。 なお、このアンケートによる評価になじまない実験、実技、実習などの講義以外の授業では別途「授業改善報告書」を教員が作成して教務係へ提出する方式をとった。
社会情報学部 社会情報学研究科	教務システムのアンケート機能を使用したWebアンケート。
医学部 医学科	医学科の学生自治組織である学友会が主体となり、1年次から6年次の各学年に対して授業アンケートを実施し、回収・集計結果を医学科教務部会に報告している。また、5－6年次の臨床実習については、実習先の診療科ごとに学生からのプログラム評価を行っている。
医学部 保健学科	平成26年度から本学で導入されている教務システムのアンケート機能を活用して、平成27年度からWebによるオンラインシステムで授業評価アンケートを実施している。対象となる授業科目は、保健学科全ての専門教育科目である。
医学系研究科	教務システムのアンケート機能を活用し、医科学専攻の基礎連続講義及び医学基礎技術実習の履修者並びに生命医科学専攻の基礎科目の履修者を対象にアンケートを行った。
保健学研究科	授業最終日に、教員が学生にWEBアンケートへの回答を依頼した。
理工学部 理工学府	教務システムのアンケート機能により、理工学府専任教員が担当する理工学府・理工学部の全科目を対象として、中間調査（意見任意）及び最終調査を実施した。

(4) アンケート結果に基づく 自己点検・評価

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例など
<p>大学教育・学生支援機構</p>	<p><b>【結果概要】</b>            学びのリテラシー（１），学びのリテラシー（２），情報を対象とした授業評価アンケートを実施し，結果は概ね良好であった。            学びのリテラシー（２）において，前年度と比較し授業がアクティブラーニングであったと回答した割合が増加した。</p> <p><b>【課題】</b>            学びのリテラシー（２）において，アクティブラーニングであったと回答した割合は増加したが，依然としてアクティブラーニングではなかったと回答した割合が多い科目がある。</p> <p><b>【具体的な改善事例】</b>            学びのリテラシー（１）において，前年度に実施した授業評価アンケートの結果を基に，担当教員がどのような改善を行ったのかを確認するための授業改善アンケートを実施した。集計結果を今後の教育改善に活用するため，学びのリテラシー（１）の担当教員へフィードバックした。            学びのリテラシー（２）においては，前年度に引き続き，アクティブラーニングではなかったと回答した学生がいる授業担当教員に対し，個別にアクティブラーニングの推進を依頼することとした。</p>
<p>教育学部 教育学研究科</p>	<p><b>【結果概要】</b>            ① 学部学生の授業満足度では，９割以上の学生が肯定的な評価をしている。（「満足している」「どちらかという満足している。」）また，大学院学生の総合評価では，８割以上の学生が「優れている」「やや優れている」と，肯定的な評価をしている。            ② アクティブラーニング型授業の導入率は約６割であり，それらの科目のうち「問題解決能力が身についた」と学生が回答した科目数は約４割であった。</p> <p><b>【課題】</b>            ① 全体から比べると小さな割合だが，「授業の進め方」「説明内容の分かりやすさ」において，改善すべきとの評価をしている学生がいる。            ② 学部においては，予習・復習をしなかったと回答した学生が約３割５分いる。</p> <p><b>【具体的な改善事例】</b>            以下のような改善事例があった。            ①学生の技能が向上した。            ②提出されたレポートの形式が昨年度よりも改善された。            ③受講生から，全員による授業研究会での学び合いやシェアリングによって，教科観が変容し，自分の専門に引きつけながら授業開発ができるようになったとの評価があった。</p>
<p>社会情報学部 社会情報学研究科</p>	<p><b>【結果概要】</b>            H29 年度より web アンケートに切り替えたが，アンケートの回答率は H29 年度よりもさらに低下した。            なお，授業を四段階で評価してくださいとの項目で，前後期ともに 8 割以上の学生が「優れている」「やや優れている」と回答しており，授業については総じて高い評価であった。</p> <p><b>【課題】</b>            アンケート回答率の低下。</p> <p><b>【具体的な改善事例】</b>            掲示，教務システム，授業内でのアナウンス等で学生へ周知し回答を促す。特に受講者数の多い授業を中心に，授業の最後にその場で回答させるように働きかける。            なお，教授会でアンケート結果について教員に周知し，各々の授業改善の参考とした。</p>

	<p>また、学部内の掲示板にアンケート結果を掲示し、学生へのフィードバックを行った。</p>
医学部 医学科	<p><b>【結果概要】</b> アンケート集計結果は、医学科教務部会に報告後、例年実施しているFDで公表している。科目単位のフィードバックを行い、今後の授業内容、実施方法の向上に寄与している。また、臨床実習における診療科ごとのプログラム評価は、診療科ごとに集計してフィードバックしている。</p> <p><b>【課題】</b> Post-CC OSCE の日程が、就職試験シーズンと重なっており、学生には大変不評であった。</p> <p><b>【具体的な改善事例】</b> 2019年度のPost-CC OSCE の日程を、就職試験シーズンがほぼ終わる時期に設定した。</p>
医学部 保健学科	<p><b>【結果概要】</b> 平成26年度までは、授業担当教員を通じて紙媒体で実施し、6割程度の回答率であったが、平成27年度から、教務システムを活用してのWebによるオンラインシステムでの実施方法に移行したところ、回答率が低下し、平成29年度後期の回答率は31.4%であった。 そのため、平成30年度は事務方から学生に複数回メールで連絡するとともに、各授業担当教員からも授業時に口頭で周知するなど保健学科全体として回答率の向上に努めたところ、平成30年度後期の回答率は50.6%になった。</p> <p><b>【課題】</b> アンケート結果について、「この授業に対する総合評価をしてください」との問いに対しては、「優れている」55%「やや優れている」41%となっており、概ね高い評価を得た。 また、「授業は学生の主体的な参加を促すものでしたか」との問いに対して、「そう思う」47%「まあそう思う」39%「あまりそう思わない」12%「そう思わない」2%との結果になっており、アクティブラーニングにより教育効果の高い授業を実践する目的は達成されていると考える。</p> <p><b>【具体的な改善事例】</b> 保健学教育ワークショップ（FD）において、保健学科教員に対するアンケート調査を実施しており、保健学科教員はアンケートに回答することにより、授業評価アンケート結果を教務システムから閲覧できること、授業評価アンケート全体の結果は掲示板にも掲示して一般公開していることを意識し、授業の改善に努めている。 また、アクティブラーニングに関する質問項目を入れることにより、アクティブラーニングへの教員の意識付けを再確認している。</p>
医学系研究科	<p><b>【結果概要】</b> 授業の全体的な評価は、前期は「非常に良い」が57.6%、「良い」が36.4%、後期は「非常に良い」が37.9%、「良い」が59.1%となっており、9割以上が肯定的な意見となっている。</p> <p><b>【課題】</b> 留学生から授業の英語化を求める声が多い。英語化に係る対応を進めているが、授業以外の部分を含め全般的に対応が十分ではない状況にある。</p> <p><b>【具体的な改善事例】</b> 留学生が履修登録している科目については、授業のスライドを極力英語で作成していくこととし、授業以外の部分（講義連絡やガイダンス資料）についても極力英語で作成していくこととした。</p>
保健学研究科	<p><b>【結果概要】</b> ・従来、紙媒体で実施していたが、今回はWEBで実施をした結果、回答率が芳しくなかったため、事務が複数回のリマインドを行った。 ・授業評価への回答については、5段階評価中、4、5が多数を占めており、</p>

	<p>おおむね好結果を得ている。自由記載欄から、学生の研究活動に活かせる内容であると評価されていることが分かる。</p>
	<p><b>【課題】</b>        非常勤講師に講義をお願いする場合、配布資料や事前課題の有無にばらつきがあることへの指摘を受けている。</p>
	<p><b>【具体的な改善事例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非常勤講師に講義を依頼する場合は、配布資料の準備をお願いするように改善していく。</li> <li>・教務委員が担当するコマの終了時に WEB アンケートへの回答を実施するようにする。</li> </ul>
<p>理工学部 理工学府</p>	<p><b>【結果概要】</b>        前年度から引き続き、中間調査を実施することにより、授業の途中で学生の意見を反映させることが可能になった。</p>
	<p><b>【課題】</b>        教務システムのアンケート機能を利用したことにより、業務の負担軽減は図れたが、紙での実施に比べて回答率が低下した。</p>
	<p><b>【具体的な改善事例】</b>        課題については、授業中に時間を取り、回答を学生に義務付けることで回答率の向上に努める予定である。        また、今年度は、各質問項目に対する選択肢ごとの回答比率の全体平均を算出して、それを各学科へフィードバックすることで各授業の相対的評価に役立たせた。</p>

## 2. 学生との懇談会

### (1) 実施状況

学部等	名称	実施月日	大学側参加者数	学生側参加者数	内容
大学教育・学生支援機構	学長と学生との懇談会	H30.11.6	6名	18名	学長が学生から本学の教育内容等に関する意見等を聞くことにより、今後の教育方法の改善等に資するものとする。
教育学部 教育学研究科	学部長との懇談会	H31.1.23	6名	25名	学習環境、授業内容等
	院生との懇談会	H30.11.28	8名	20名	カリキュラム、学習環境等
社会情報学部 社会情報学 研究科	学生と学部長との懇談会	H30.10.31	9名	11名	学部長と学部学生との懇談
	学生と研究科長との懇談会	H31.1.29	6名	5名	研究科長と大学院生との懇談
医学部 医学科	第1回医学科学会と教職員との懇談会	H30.7.18	29名	17名	授業内容・学生生活等に対する要望の聴取、意見交換
	第2回医学科学会と教職員との懇談会	H31.2.18	25名	16名	授業内容・学生生活等に対する要望の聴取、意見交換
医学部 保健学科	第1回保健学科学会と教職員との懇談会	H30.7.17	25名	9名	教育課程・施設等に対する要望の聴取、意見交換
	第2回保健学科学会と教職員との懇談会	H31.1.29	28名	9名	教育課程・施設等に対する要望の聴取、意見交換
医学系研究科	該当なし				
保健学研究科	該当なし				
理工学部 理工学府	授業改善アンケートに関わる学生と教員との懇談会（化学・生物化学科2年生）	H30.10.4	教員20名	165名	前期アンケート実施科目全ての集計結果に対する教員からの回答について、分野ごとのカリキュラム委員から説明し、教員と学生間で意見交換を行った。
	授業改善アンケートに関わる学生と教員との懇談会（化学・生物化学科3年生）	H30.10.1	教員20名	172名	同上
	2年生と教員との懇談会（機械知能システム理工学科）	H30.10.2	教員5名	約130名	2年生からの授業や学生生活に対する要望や意見を聞き、その場で教員側が対応した。

	3年生と教員との懇談会（機械知能システム理工学科）	H30.11.30	教員 4 名	約 100 名	2 年生からの授業や学生生活に対する要望や意見を聞き、その場で教員側が対応した。
	学生（2年生）との懇談会（環境創生理工科・環境エネルギーコース）	H30.4.13 H30.10.15	教員 2 名	約 60 名	授業アンケートに対する教員対応及び前回の懇談会で出た意見に対するコース対応の説明、及び学生と教員との意見交換。懇談会後にも懇談会の場では言いにくい意見をアンケート形式で調査。
	学生（3年生）との懇談会（環境創生理工学科・環境エネルギーコース）	H30.4.12 H30.11.6	教員 2 名	約 60 名	授業アンケートに対する教員対応及び前回の懇談会で出た意見に対するコース対応の説明、及び学生と教員との意見交換。懇談会後にも懇談会の場では言いにくい意見をアンケート形式で調査。
	授業評価アンケート結果に基づく学生と教員との懇談会（電子情報理工学科・電気電子コース）	H31.5.15	教員 1 名	3 年生 5 名 4 年生 6 名	授業全般（カリキュラムや教務システム含む）に関する意見交換
	学生と教員との懇談会（電子情報理工学科・情報科学コース）	H30.7.19	教員 1 名	19 名	教員と学生との意見交換
	理工学府長と学生との懇談会	H30.12.19	教員 3 名	17 名	事前にとりまとめた意見・質問等を基にした、理工学府長と学生との懇談

(2) 懇談会での意見に基づく 自己点検・評価

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
大学教育・学生支援機構	【結果概要】 群馬大学の魅力、入学前と入学後の印象、4年間の目標等について意見交換が行われた。
	【課題】 英語教育について、日本人教師のクラスと外国人教師のクラスでは差があるとの意見があった。
	【具体的な改善事例】 英語教員FDにおいて検討を行い、次年度の英語教育に反映させること

	とした。
教育学部 教育学研究科	<b>【結果概要】</b> ① 設備、カリキュラム、実習等について要望があった。 ② 事前に学生に意見照会した内容を基に学生と意見交換を行った。
	<b>【課題】</b> ① 学部においては、設備面、駐車場の改善を求める学生が多い。 ② 大学院においては、教職実践インターンシップの実施や設備面、駐車場の改善を求める学生が多い。
	<b>【具体的な改善事例】</b> ① 駐車場については取り締まりを強化した。 ② 期末試験をより厳正に実施できるよう、教育学部期末試験実施要領の見直しを行った。 ③ 大学院における教職実践インターンシップにおいて、大学とインターンシップ先の連携が取れていないとの意見が若干あったが、連携を密に取ることで改善がみられた。 ④ 大学院における履修登録時に指導教員の確認印をもらうこととなっているが、前年度に周知不足があったため、年度当初のガイダンスで強調したことにより改善がみられた。
社会情報学部 社会情報学研究科	<b>【結果概要】</b> 例年、学生の参加者が少ないため、事前に掲示、教務システムでの周知、担当学生からの声掛けを行ったが、参加人数は増えなかった。
	<b>【課題】</b> 学生の参加者数を増やす。 学生との意見交換内容は別紙報告書のとおり。
	<b>【具体的な改善事例】</b> もっと早い時期から学生へ周知を行う。 学生からの意見・要望への対応は別紙報告書のとおり。
医学部 医学科	<b>【結果概要】</b> 授業カリキュラムについての学生からの要望に対して、カリキュラム構成の趣旨・根拠等を説明して理解を求めた。 USB紛失事件に端を発した、実習室へのパソコン・タブレットの持ち込み禁止に対して、学生から反対意見があり、長時間にわたり意見交換を行った。
	<b>【課題】</b> 実習室へのパソコン・タブレットの持ち込み禁止については、課題の提出ができない、実習に必要な調べ物ができない等により、学生が強い不満を持っていることがわかった。
	<b>【具体的な改善事例】</b> 学生が優先して使用できる電子カルテを確保し、電子カルテシステム内に学生のフォルダを作成して、そこへ課題を提出する、大学でタブレットを用意するなど、個人情報に留意しながら、実習の妨げにならない方策を検討している。
医学部 保健学科	<b>【結果概要】</b> 授業カリキュラムについての学生からの要望に対して、カリキュラム構成の趣旨・根拠等を説明して理解を求めた。 学生からの要望に基づき各講義室の設備等を改善した。 駐輪場、駐車場に対しての不満が、多く上げられた。 毎回の懇談会で同じ質問が出てきて、同じ回答をしていることが分かった。
	<b>【課題】</b> 昭和キャンパスは、学生の駐輪場、駐車場が十分に確保できていない。 毎回の懇談会で同じ質問が出てくるのは、学友会から学生へのフィード

	<p>バックが十分でないのではないためと思われる。</p> <p><b>【具体的な改善事例】</b>  駐輪場に対する意見を踏まえ、これまで隔年で行っていた昭和キャンパスでの放置車両撤去を、毎年行うこととした。また、駐車場に対する意見を踏まえ、前橋リリカ駐車場の学生用の駐車可能台数をこれまでの30台から60台に増やしてもらった。  学友会で作成した質疑応答を掲示板に載せて、全学生に周知することとした。  懇談会で長く要望していた、老朽化が進んでいる西棟の改修が2019年度後期に行われることとなった。</p>
理工学部 理工学府	<p><b>【結果概要】</b>  (理工学府長と学生との懇談会)  平成29年度は教育に関係を有しない施設等の要望など、事務で回答が可能な事項の質問が多かったため、平成30年度は予めテーマを決めて懇談を行い、学生からは好評であった。</p> <p><b>【課題】</b>  (理工学府長と学生との懇談会)  学生からの質問・意見として、以下のようなものがあった。  ○聴覚障害学生のためのPCテイクを実施する学生が少ないのではないか。</p> <p><b>【具体的な改善事例】</b>  (理工学府長と学生との懇談会)  平成31年度桐生地区の新2・3年生オリエンテーションにおいて、聴覚障害を持つ学生本人が出演するテイク募集の映像を流し、PCテイクの業務内容とその必要性を伝えた。</p>

### 3. FD活動

#### (1) 実施状況

学部等	実施組織	名称	実施月日	教員参加者数	内容
大学教育・学生支援機構	大学教育・学生支援機構 大学教育センター	ベストティーチャー賞選考のための公開模擬授業	H30.9.14	112名	最優秀賞候補者3名による公開模擬授業を実施
	大学教育・学生支援機構 大学教育センター	第10回全学FD連続講演会 「大学教育のグランドデザイン」	H30.12.21	32名	アクティブラーニングの導入について外部講師を招いての講演
教育学部 教育学研究科	教育学部	教育学部FD	H30.10.17	68名	「本学における学生のメンタルヘルス不調・自殺防止対応について」
	教育学部	教育学部FD	H30.12.19	70名	「教育学研究科研究科は何を求められているのか」
	教育学部	教員間相互授業研究 Week	H30.11.19 ～30	14名	授業公開の実施
	教員養成FDセンター	附属学校園・公開研究会	H30.5.29 外5件	41名	道徳授業ラボ 外
	教員養成FDセンター	教育実習A,C,Dおよび幼稚園教育実習	H30.9.20 外8件	24名	教育実習の参観
	教員養成FDセンター	附属学校園における大学教員の公開授業	H30.4.26 外17件	20名	大学教員による授業「紀行文を書こう①散文編」外
	教員養成FDセンター	附属学校園と大学教員の連携による附属学校園教員研修会	H30.8.3 外2件	3名	プログラミング教育研修会 外
	教員養成FDセンター	新任教員FD研修会	H30.5.31 外2件	31名	教育学部新任教員へ教育学部の歴史、特色、教育学部が抱える課題等の内容説明
社会情報学部 社会情報学 研究科	社会情報学教育・研究センター	FD講習会	H30.12.19	24名	「学生の自殺予防」に係るFD
	広報室	公開授業	H30.7.8 H30.8.17	21名	ベストティーチャー賞受賞者の授業
医学部 医学科	医学科教務部会	医学教育教授法FD(①)	H31.2.9	125名	模擬授業(授業が高評価の教員による)

					る)、特別講演 (アクティブラーニングに関する講演)
	医学科教務部 会	基礎系教員向け医療安全FD (②)	H31.3.11	34名	医療の「質」「安全」の世界的現況、学生実習における医療安全の課題等
医学部 保健学科	保健学科	第1回保健学教育ワークショップ	H30.9.18	68名	ベストティーチャー賞受賞者による公開模擬授業を実施
	保健学科	第2回保健学教育ワークショップ	H31.3.6	66名	「臨床研究と研究倫理について」をテーマとする学内講師による講演
医学系研究科	医科学専攻教務委員会	産学連携に関するFD講演会	H30.12.5	55名	How new ideas get commercialized: the role of academic-industry partnerships
	医科学専攻教務委員会 生命医科学専攻教務委員会	群馬大学大学院医学系研究科FD	H31.2.20	59名	女性教員、女性研究者の活性化にむけて
保健学研究科	教務委員会	保健学研究科FDセミナー	H31.3.6	66名	・臨床研究と研究倫理について ・広報活動について ・医療技術者養成学校指定申請等について
理工学部 理工学府	理工学部	学生のメンタルヘルス不調・自殺対策に関するFD講演会	H30.6.18	75名	学生のメンタルヘルス不調や自殺予防対策に関する講演
	理工学部	ベストティーチャー賞受賞者による模擬授業	H30.12.13	94名	ベストティーチャー賞受賞者による模擬授業
	理工学部	公開授業	H30.6.11 ～7.6	16名	教員相互の公開授業 (事後アンケート回答者70名)
	理工学部	公開授業	H30.12.13 ～ H31.1.31	16名	教員相互の公開授業 (アンケート回答者54名)

(2) FD活動に基づく 自己点検・評価

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
大学教育・学生支援機構	<p><b>【結果概要】</b>  全学FD連続講演会「大学教育のグランドデザイン」では、他大学の事例発表を通して今後の大学教育の取り組みについて確認した。</p>

	<p><b>【課題】</b> 新任教員は採用後3年以内に、ベストティーチャー賞選考のための公開模擬授業に参加することとしているが、参加していない教員がいる。</p>
	<p><b>【具体的な改善事例】</b> 公開模擬授業に参加できない教員に対し、公開模擬授業の様態を録画したDVDを視聴させる代替措置を取っている。</p>
教育学部 教育学研究科	<p><b>【結果概要】</b> 昨年度までの授業公開制度における参加者が年々少なくなってきたことから、平成30年度から新たな授業公開制度を立ち上げた。特定の2週間を定め、一部科目を除き、専門科目を開放し、見学者・授業者が相互に授業改善に資することを目的とするものである。授業を参観した教員からは新たな気づきを得ることができ、良い機会となった旨の回答を得た。 附属四校園で行われた研究会や教育実習の授業を参観した教員からは、この活動をとおして、学生にどのような教育をすべきか、また、学校現場が抱える課題に対して自身の専門性を活かした研究課題についても考える機会になった等有意義なものであった旨の回答を得た。</p>
	<p><b>【課題】</b> 教育学部の「教員間相互授業研究 Week」については、新たに立ち上げた授業公開制度であるが、参加人数が14名にとどまった。</p>
	<p><b>【具体的な改善事例】</b> 「教員間相互授業研究 Week」については、より多くの教員が参加し、授業改善に資することができるよう、更なる事前周知が望まれるため、教務委員会を中心に対策を行う。</p>
社会情報学部 社会情報学研究科	<p><b>【結果概要】</b> 複数回開催したことにより、より多くの教員が参加し、授業評価結果のフィードバックにより、教育の質向上や授業の改善に結びついた。</p>
	<p><b>【課題】</b> 全ての教員が参加することはできなかった。</p>
	<p><b>【具体的な改善事例】</b> 全ての教員が参加できるように、開催日（回数）について検討する。</p>
医学部 医学科	<p><b>【結果概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医学教育分野別評価でも指摘されたアクティブラーニングについて、識者の講演を聞くことで教育の理解を深める機会とすることができた。 (①)</li> <li>・医療安全に関する知識のアップデートが不十分になりがちな基礎系教員に対し、現況と課題を提示することで、学生実習における医療安全について見直す機会とすることができた。(②)</li> </ul>
	<p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬授業を実施する教員が限られている。より多くの教員が模擬授業を実施するようになると良い(①)。</li> <li>・基礎系教室では、医療安全に関する情報に接する機会が限られており、定期的な情報提供が必要である(②)。</li> </ul>
	<p><b>【具体的な改善事例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・より多くの教員が模擬授業の対象となるよう、選考方法を再検討する(①)。</li> </ul>
医学部 保健学科	<p><b>【結果概要】</b> 各授業担当教員の教育方法の工夫や改善を促すため、更なる教育の質的向上を目指し、ベストティーチャー賞受賞者による公開模擬授業を実施した。</p>
	<p><b>【課題】</b> 保健学教育ワークショップ(FD)の第1回の出席率は89.5%、第2回の出席率は82.5%であったが、保健学科全体としての共通理解を深めるため、</p>

	<p>全ての教員が参加できるように開催日を決める。 また、特別な理由が見受けられないにも関わらず、開始時間を大幅に過ぎてから入室する教員がいたとの指摘があり、改善点となっている。</p> <p><b>【具体的な改善事例】</b> 今後、保健学科教育課程専門委員会で検討し、入室時間に関しての注意喚起をする等の対応をしていきたい。</p>
医学系研究科	<p><b>【結果概要】</b> ○産学連携に関する FD 講演会 研究をどのようにして商品化までつなげるのかについて、最新の情報を紹介してもらい、意見交換を行った。 ○群馬大学大学院医学系研究科 F D 「女性研究者のライフイベントをサポートするには一大規模アンケート結果紹介と個人的要望」 「研究という職業を選んで経験してきたこと」 「朗らかに穏やかに根気よくー女性研究者の活躍に向けて」 「群馬大学でキャリアを得て、今思うこと」 上記について演者の経験も交えて講演してもらい、女性教員、女性研究者の活性化について意見交換を行った。</p> <p><b>【課題】</b> ○産学連携に関する FD 講演会 特になし ○群馬大学大学院医学系研究科 F D 1：学内診療所の設置 2：学内保育園（ゆめの子保育園の拡充、運用の柔軟性、駐車スペース） 3：上司の理解（女性教員に対する慣例や偏見からの脱却） 4：メンターの存在（講座を越えても良い） 5：群馬大学サポーターバンク（医師会の保育サポーターバンクに相当）</p> <p><b>【具体的な改善事例】</b> ○群馬大学大学院医学系研究科 F D 学内診療所については、病院長と相談することとなった。 メンターに関しては、医学系研究科男女共同参画推進委員会メンバーに相応しい教員が相当数 いるので、若手教員・若手研究者は積極的に相談するよう周知することとした。</p>
保健学研究科	<p><b>【結果概要】</b> ・学部の後期試験や実習が一段落した時期に開催することで、教員が参加しやすいように工夫した。 ・学生の研究指導をするにあたり備えておくべき研究倫理を教員間で確認し合うことができた。</p> <p><b>【課題】</b> ・特になし</p> <p><b>【具体的な改善事例】</b> ・特になし</p>
理工学部 理工学府	<p><b>【結果概要】</b> ベストティーチャー賞受賞者による模擬授業では、受賞者に授業において工夫をしている点等の説明及び、実際に講義をしてもらうことにより、出席した教員の授業改善に資する機会となった。 自殺対策に係る講演会では、健康総合支援センター精神科医により、学生のメンタル不調や自殺を未然に防ぐ対策などを説明してもらい、教員が学生と接するなかでの気づきのきっかけを知る機会となった。 教員相互の公開授業について、前期・後期ともに実施した。</p> <p><b>【課題】</b> (公開授業) 参加率が低い</p>

**【具体的な改善事例】**

教員相互の公開授業について、実施していることを学生が知らないという授業をしている教室に入りづらいとの意見があったため、学生に対しても掲示により実施期間を周知した。

アンケートにより、参加しなかった（できなかった）理由を聴取する（予定）

## 4. 学生等への意見調査

(在学生、卒業（修了）生、就職先及び保護者など)

## (1) 実施状況

学部等	名称	実施月日	対象者・人数	内容
大学教育・学生支援機構	全学卒業時アンケート	H30.12～H31.3	平成31年3月 卒業生 1,171名	卒業生を対象にした、学生生活、教養教育科目等についてのアンケート調査
	全学修了時アンケート	H30.12月～H31.3	平成31年3月 修了者 455名	修了生を対象にした、研究環境や進路選択の支援等についてのアンケート調査
教育学部 教育学研究科	教育実習A及びBに関するアンケート	H30.11	学部3年生及び一部4年生 231名	教育実習の充実度に関するアンケート
社会情報学部 社会情報学研究科	新入生との懇談会	H30.4.5	102名	新入生と教員とで懇談を行った。
	卒業時アンケート	H30.1.26	106名	卒業論文発表会終了時に、学部生としての活動を総括するアンケートを実施した。
	修了時アンケート	H31.2.16	7名	修士論文発表会終了時に、院生としての活動を総括するアンケートを実施した。
医学部 医学科	平成30年度医学科卒業時アンケート(①)	H30.11.2	6年生・108名	学部独自の調査項目をカリキュラム評価委員会が設定し、6年次生を対象にカリキュラムや学生生活に関する満足度等を調査
	医師国家試験アンケート(②)	H31.2.28	6年生・108名	医師国家試験受験に際し授業で取り上げて欲しかった項目や後輩へのメッセージ等を調査
医学部 保健学科	卒業時アンケート	H31.2.1	157名	今後における教育・学生支援の充実のために、卒業予定者を対象に実施
医学系研究科	該当なし			
保健学研究科	該当なし			
理工学部 理工学府	理工学部及び理工学府における卒業・修了時アンケート調査	H31.2.12～3.22	学部4年次(577名) 学部回答数(153名) 大学院(修士)2年次(317名) 大学院(博士)3年次(12名) 院回答数(169名)	授業科目や課程に関する意見や満足度、進学先等

(2) 意見調査に基づく 自己点検・評価

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
大学教育・学生支援機構	<p><b>【結果概要】</b> 教務システムを利用して実施したところ、紙媒体で実施した前年度と比べて回収率が学部29%、大学院57%と大幅に低くなってしまった。</p>
	<p><b>【課題】</b> 回収率を、紙媒体で実施した前年度程度（学部73%、大学院76%）にする必要がある。</p>
	<p><b>【具体的な改善事例】</b> アンケートの実施方法等について、教育改革推進室会議で検討を行う。</p>
教育学部 教育学研究科	<p><b>【結果概要】</b> 実習の充実度、実習期間の設定、実習校への割り振りの満足度、実習A（基礎実習）における経験をB実習（応用実習）へ活用できたかについて、8割5分以上の学生が肯定的な評価をしている。</p>
	<p><b>【課題】</b> 全体の割合に比べればわずかであるが、実習期間設定と実習校の割り振りについては満足度が低いとする学生がいる。 関連し、実習を受け入れる学校について、様々な理由から実習人数を縮小する学校が出てきていることも事実である。</p>
	<p><b>【具体的な改善事例】</b> 実習期間等については、各実習校や教育委員会との調整が必要となるため、引き続き教育実習委員会において検討を続ける。</p>
社会情報学部 社会情報学研究科	<p><b>【結果概要】</b> 学部卒業時アンケートにおける「群馬大学社会情報学部でのあなたの学生生活は、充実していましたか」との質問に対し、「とても充実」「充実」と回答した者は情報行動学科で合わせて93.4%、情報社会学科で92.7%であった。研究科修了時アンケートでのそれは100%であった。 学部・研究科ともに、学生は学生生活に満足し、高く評価していることが伺われた。</p>
	<p><b>【課題】</b> 大学院進学情報の提供について「あまり行われていなかった」「ほとんど行われていなかった」「わからない」と答えた回答者が、情報行動学科で46.5%、情報社会学科で36.8%いた。</p>
	<p><b>【具体的な改善事例】</b> 大学院説明会の案内等、学生への周知を検討する必要がある。</p>
医学部 医学科	<p><b>【結果概要】</b> カリキュラムに関しては全体的に満足度が高く、アウトカムの達成度も概ね十分という回答が多かったが、自由記述の中で意見・要望が多く寄せられた。 学習・生活支援・施設の項目では、チューター制度への満足度は高いが相談窓口や教務システムに関する不満の回答が多く、また、課外活動・生協等の施設に関する不満も多かった。(①) 教務部会長が設定し、教務システムにて医師国家試験の受験を終えた6年次生を対象に実施した。授業や実習で取り上げて欲しかった項目はカリキュラム検討委員会で検討して今後の授業改善につなげ、後輩へのメッセージは次年度のオリエンテーションの際に在学生へ伝えることで、早い段階から国家試験を意識して勉強できるよう意識付けができた。(②)</p>
	<p><b>【課題】</b> カリキュラムやアウトカムに関する自由記述の中で、特に臨床実習に関する意見・要望が多かったため、低学年からの実習の在り方や実習期間等の見直しが課題。 図書館以外の施設等に関する不満の回答が多く、課外活動施設の老朽化と自習室やロッカー室等の共用スペースの狭隘が課題である。</p>

	<p>教員との連絡・相談の機会はある程度確保できているようだが、不満の回答が多かった事務的な対応については、連絡方法や説明会等の周知に工夫が必要と思われる。(①)</p> <p>臨床実習において国家試験を意識して必要な項目を指導できる体制が必要。(②)</p> <p>自習室の確保 (②)</p> <p><b>【具体的な改善事例】</b></p> <p>モデル・コア・カリキュラム(医学科生として学ぶべき項目等)と実際の講義・実習内容の照合アンケートを実施し、不足・重複項目を考慮した新カリキュラムの改定及び時間割設定の作業を行っている。</p> <p>特に臨床実習に関しては臨床実習改善WGを立ち上げ、必要な項目のうちどの項目を実際に現場で指導しているか調査し、不足している項目を指導できる体制を整える。</p> <p>施設の改修や増築等には限界があるが引き続き要望していく。自習室やロッカー等の学生向け設備状況を確認し、可能な範囲で補充を行った。また、新たな部屋の確保に向けてあまり使用されていない部屋がないか調査する。</p> <p>事務的な連絡等は教務システム、Moodleを活用する場合でもメール連絡を複数回行い、更に学生代表(学友会)を介した周知等を行った。</p> <p>説明会や共用試験等の実施日時は講義・実習・学外行事等のスケジュールを考慮して設定した。</p>
<p>医学部 保健学科</p>	<p><b>【結果概要】</b></p> <p>平成29年度から全学の卒業時アンケートを実施することになったため、同年度から保健学科独自の卒業時アンケートも実施している。</p> <p><b>【課題】</b></p> <p>保健学科としては「保健学科で得たものは何ですか。」との質問事項において、「論理的思考能力」「表現力・プレゼンテーション能力」に該当しないとの回答が多かったため、この能力をどのように伸ばしていくかが課題となっている。</p> <p>また、保健学科の学習により身につけた項目を問う質問においては、「保健医療者に必要な知識と技術」「人間の尊厳を尊ぶ心」「将来にむけて、意欲を持って自らを向上させる力(自己開発力)」「チーム医療の担い手として、他者との相互理解や協働関係の構築ができる力」「医療が直面するいろいろな課題に対して、様々な立場・視点から柔軟に考え、判断し、対応するための基礎的な能力」は8割を超えていたため、学生の目標は概ね達成しているものと判断できる。</p> <p><b>【具体的な改善事例】</b></p> <p>保健学科教育課程専門委員会で、ディプロマ・ポリシーとの関連や今後の改善策について検討し、経年変化を分析していく。</p>
<p>理工学部 理工学府</p>	<p><b>【結果概要】</b></p> <p>学部、大学院ともに概ね肯定的な評価であった。</p> <p><b>【課題】</b></p> <p>外国語教育について、不十分であるという意見が他の分野に比べて多かった。</p> <p><b>【具体的な改善事例】</b></p> <p>今年度から、2年次対象の教養英語を実施している。また、専門教育科目の一部授業を英語により実施している。</p>

5. 学外者の意見や第三者評価等の結果の活用

(1) 実施状況

学部等	名称	実施月日	概要
大学教育・学生支援機構	群馬大学卒業生・修了生就職先機関アンケート調査	H30.12.3～ H31.2.28	平成28年度～平成30年度卒業生・修了生が在籍している機関を対象にした郵送によるアンケート調査
教育学部 教育学研究科	教育実習A、C、D運営協議会、教育実習B運営協議会	H30.7.25	教育実習前の意見交換（教育委員会、実習校）
	教育実習A、C、D研究協議会	H30.11.7	教育実習後の意見交換（教育委員会、実習校）
	教育実習B研究協議会	H30.12.5	教育実習に関する意見交換（教育委員会、実習校）
	教職大学院連携協議会	H30.5.30 H31.1.23	教職大学院における課題研究実習に関する意見交換（教育委員会、実習校）
社会情報学部 社会情報学研究科	アドバイザーボード	H31.3.5	事業運営に関し、外部有識者から意見を伺い、更なる発展に繋げる。
医学部 医学科	カリキュラム評価委員会	適宜	他大学教員、群馬県関係者を外部委員に委嘱し、委員会で情報共有や意見交換を行っている
医学部 保健学科	スーパーバイザー会議	H30.7.13	臨床実習の運営等についての協議等
	リハビリテーション教育評価機構の評価認定審査	PT H30.11.14	リハビリテーション教育プログラムについての評価
	リハビリテーション教育評価機構の評価認定審査	OT H30.10.10	リハビリテーション教育プログラムについての評価
医学系研究科	該当なし		
保健学研究科	群馬一丸で育てる地域完結型看護リーダー外部評価委員会	H30.11.29	文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」に採択された事業の最終年度において、5年間の活動を報告し、外部評価委員からの最終評価を受けた。
理工学部 理工学府	JABEE 認定継続審査	H30.10.28 H30.10.29 H30.10.30	環境創生理工学科社会基盤・防災コースで認定を受けている技術者教育プログラム（土木及び関連の工学分野）の認定継続審査
	学外委員による外部評価委員会	H30.9.18 H30.12.7	学外の委員（企業、大学、高専など）によるカリキュラム等に対する評価・意見交換（機械知能システム理工学科）
	JABEE 用外部評価アンケート	H30.6.19	JABEE 審査項目にある外部評価としてのアンケート調査（環境創生理工学科社会基盤・防災コース）

(2) 意見等に基づく改善事例

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
大学教育・学生支援機構	<p>【意見・指摘事項等】 国際的に働くための力量が、他大学出身者と比較して「やや劣っている」「とても劣っている」の割合が他の質問項目に比べて高かった。</p> <p>【具体的な改善事例】 教育改革英語WGを設置し英語教育の検討を開始したことから、3年後に実施予定の次回アンケートで状況を確認することとした。</p>
教育学部 教育学研究科	<p>【意見・指摘事項等】 実習生を受け入れた際のことについて、実習校から、実習生の授業の進め方や生徒指導等について、それぞれ意見・感想が述べられた。</p> <p>【具体的な改善事例】 実習校からの意見を、教育実習委員会及び専門職学位課程運営委員会において検討し、実習方法等の見直しや学生への指導を行う上での参考とした。</p>
社会情報学部 社会情報学研究科	<p>【意見・指摘事項等】 ・社会人学び直し事業は新たなニーズを検討し、社会にアピールできるとよい。 ・社会情報学部の特色をアピールしていかなくてはならない。</p> <p>【具体的な改善事例】 ・社会人学び直し事業は新たなニーズと社会へのアピールについて検討。 ・特色をアピールできるよう、広報活動を検討。</p>
医学部 医学科	<p>【意見・指摘事項等】 卒後研修が必修になったことから他大学、特に私立大学では国家試験の合格率を意識するようになってきている。しかし、国家試験のみでなく大学医学部の使命は何か、アウトカムは何かということを考えることが重要である。 現行の成績評価がアウトカムに対してきちんと評価できているかを検討し、不足する部分について関連委員会で検討する必要がある。</p> <p>【具体的な改善事例】 講義・実習担当の全教員に対して本学医学部医学科の使命やアウトカムを常に意識してもらうため、「モデル・コア・カリキュラム」及び「医学科のアウトカムとコンピテンシー」を配付。 他大学のシラバスを提供してもらい、カリキュラム改訂作業に関わる教員が閲覧できるようにした。</p>
医学部 保健学科	<p>【意見・指摘事項等】 理学療法学専攻及び作業療法学専攻においては、実習済施設並びに実習予定施設の実習指導者から指導を受けるため、スーパーバイザー会議を実施した。 また、平成30年度は5年に一度のリハビリテーション教育評価機構の評価認定審査があり、事前に提出した書面調査書類に基づき実地調査を受審したところ、リハビリテーション関連職種の教育・養成の質の向上に高く貢献していることを評価された。</p> <p>【具体的な改善事例】 令和2年度から理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則が一部改正されることに伴い、理学療法学専攻及び作業療法学専攻では、更なる発展充実のためにカリキュラム見直しを検討する。</p>
保健学研究科	<p>【意見・指摘事項等】 ・「在宅ケアマインド」の導入が教育課程の中で実践できたことを高く評価された。 ・教員と病院看護師の人事交流を実現し、双方の教育能力の向上に繋がったことが高く評価された。</p> <p>【具体的な改善事例】</p>

理工学部 理工学府	<p><b>【意見・指摘事項等】</b>  (学外委員による外部評価委員会)  外部評価委員会では、各委員からカリキュラムや講義内容に対して多くの意見をいただいた。その中で危険予知や安全教育を充実すべきとの指摘があった。</p> <p>(JABEE 認定継続審査・外部評価アンケート)  JABEE 審査は 6 年満期の継続認定を受けた。従って、W (弱点) は無かった。また、その JABEE 審査項目にある外部評価として、例年、コース OB・OG (公務員・民間技術者) に対して、外部評価アンケートを行なっている。その結果は、当コースの学生は、コミュニケーション能力やリーダーシップ能力にやや懸念があると指摘を受けた。</p>
	<p><b>【具体的な改善事例】</b>  (学外委員による外部評価委員会)  具体的な改善事例として、外部評価委員会での指摘を元に令和元年度の工作実習から安全教育を導入したことが挙げられる。</p> <p>(JABEE 認定継続審査・外部評価アンケート)  コミュニケーション能力・リーダーシップ能力に関しては、JABEE においても他分野との「協働」という点で強化する旨、審査項目となっているが、これについては、当コースで次年度から開講される「防災計画」の中で新たに取り組みがなされる。</p>

#### 6. その他 特記事項

学部等	特記事項
大学教育・学生支援機構	特になし
教育学部 教育学研究科	特になし
社会情報学部 社会情報学研究科	特になし
医学部 医学科	特になし
医学部 保健学科	特になし
医学系研究科	特になし
保健学研究科	特になし
理工学部 理工学府	特になし

7. 根拠資料

学部等	根拠資料
大学教育・学生支援機構	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 30 年度前期授業評価（学びのリテラシー 1）集計表</li> <li>・平成 30 年度後期授業評価（学びのリテラシー 2）集計表</li> <li>・平成 30 年度授業評価（情報）集計表</li> <li>・学長と学生との懇談会次第</li> <li>・群馬大学ベストティーチャー賞公開模擬授業及び授与式開催案内</li> <li>・第 10 回全学 FD 講演会「大学教育のグランドデザイン」開催案内</li> <li>・群馬大学卒業生・修了生就職先機関アンケート調査結果</li> </ul>
教育学部 教育学研究科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価集計結果</li> <li>・授業評価アンケートWEB画面</li> <li>・授業改善報告書</li> <li>・平成 30 年度教育学部長と学生との懇談会要望事項一覧</li> <li>・平成 30 年度修士課程院生との懇談会要望事項一覧</li> <li>・教員間相互授業研究WEEKについて</li> <li>・平成 30 年度「教育実習AおよびB」に関するアンケート集計結果</li> </ul>
社会情報学部 社会情報学研究科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部授業評価アンケート集計結果</li> <li>・大学院授業評価アンケート集計結果</li> <li>・学部長との懇談会案内，懇談会記録</li> <li>・研究科長との懇談会案内，懇談会記録</li> <li>・ガイダンス一覧</li> <li>・学部卒業時アンケート，集計結果</li> <li>・研究科修了時アンケート，集計結果</li> <li>・アドバイザーボード会議要旨</li> </ul>
医学部 医学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学教育教授法 FD 次第</li> <li>・基礎系教員向け医療安全 FD ポスター</li> <li>・平成 30 年度医学科卒業時アンケート用紙</li> <li>・医師国家試験アンケート（教務システム画面）</li> <li>・「モデル・コア・カリキュラム」と現行の講義・実習の照合アンケート依頼文等（「モデル・コア・カリキュラム」含む）</li> <li>・医学科のアウトカムとコンピテンシー</li> <li>・医学科学友会との懇談会質疑応答内容</li> </ul>
医学部 保健学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 30 年度後期授業評価アンケート集計結果</li> <li>・平成 30 年度前期授業評価アンケート集計結果</li> <li>・【保】H30 第 1 回学友会懇談会内容 0727</li> <li>・【保】H30 第 2 回学友会懇談会質疑応答内容 0222</li> <li>・平成 30 年度後期 FD・出欠状況確認表</li> <li>・平成 30 年度前期 FD・出欠状況確認表</li> <li>・H30 卒業時アンケート結果（保健学科）</li> <li>・SV 会議 伺 290516</li> <li>・教育評価機構・実施調査 PT</li> <li>・教育評価機構・実地調査 OT</li> </ul>
医学系研究科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価アンケート集計結果（前期・後期）</li> <li>・FD 開催通知</li> </ul>
保健学研究科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価アンケート集計結果</li> <li>・FD 活動の次第、配布資料</li> <li>・外部評価委員会次第、委員会の要旨</li> </ul>
理工学部 理工学府	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業アンケート画面」</li> <li>・「理工学府長と学生との懇談会次第」，「学生との懇談会(学科)報告書」</li> <li>・「FD 関連資料（実施案内）」</li> <li>・「卒業・修了時アンケート集計結果画面」</li> <li>・「JABEE 認定継続審査結果表紙」</li> </ul>



## 平成30年度 授業評価実施状況一覧

		合 計		内 訳			
				前 期		後 期	
		実施科目(題目)	アンケート回収数	実施科目(題目)	アンケート回収数	実施科目(題目)	アンケート回収数
教養教育科目	学びのリテラシー	77	1,645	25	949	52	696
	情報	12	906	8	788	4	118
	小 計	89	2,551	33	1,737	56	814
専門教育科目	教育学部	590	5,806	312	3,819	278	1,987
	社会情報学部	188	1,746	65	910	123	836
	医学部医学科	52	3,207	33	849	19	2,358
	医学部保健学科	268	5,876	148	3,522	120	2,354
	理工学部	407	9,416	191	5,663	216	3,753
	小 計	1,505	26,051	749	14,763	756	11,288
大 学 院	教育学研究科	112	364	50	221	62	143
	社会情報学研究科	35	91	18	56	17	35
	医学系研究科	42	132	22	66	20	66
	保健学研究科	3	40	3	40	—	—
	理工学府	135	643	68	457	67	186
	小 計	327	1,270	161	840	166	430
合 計		1,921 (1,708)	29,872 (36,606)	943 (827)	17,340 (19,680)	978 (881)	12,532 (16,914)

※ ( ) 書きは、昨年度の実績。